

## 後発医薬品(ジェネリック医薬品)に関するアンケート結果の概要

【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

### ○ ジェネリック医薬品について

- ・聞いたことがある (n=1,425) (報告書 p. 10) 約 96%

⇒「国(厚生労働省)で承認された薬」などは認知度が低い。

(報告書 p. 12)

知っている内容	割合
国(厚生労働省)で承認された薬	51.8%
医療費(薬剤費)が節約され、国民皆保険制度を維持するのに役立つ	51.8%
ジェネリック医薬品が存在しない医薬品もある	51.3%
先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等	41.4%
先発医薬品と添加物が異なる場合がある	40.6%
薬によっては、ひとつの先発医薬品に対して、複数のジェネリック医薬品が存在する	39.9%
製剤技術の進歩やメーカーの製剤開発の工夫により、色や形、味など、飲みやすく改良されているものがある	31.0%
先発医薬品の製造販売が終了し、ジェネリック医薬品しかない場合もある	18.2%

- ・使ったことがある (n=1,373) (報告書 p. 14) 約 92%

⇒10歳未満と60歳以上では、使ったことがない割合が他の年齢に比べて多い。(報告書 p. 15)

- ジェネリック医薬品を使用して良いと感じたこと (n=1, 262) (複数回答)  
(報告書 p. 16)

- ・ 窓口での支払額が減った 約 68%  
⇒10 歳未満では、味が飲みやすかったが最も多い。(報告書 p. 17)

年齢層	1 位
10 歳未満	味が飲みやすかった
10 歳以上	窓口での支払額が減った

- ジェネリック医薬品に変更したきっかけ (n=1, 018) (複数回答) (報告書 p. 20)

- ・ 薬局からの説明 約 82%

- 自分からジェネリック医薬品の希望を申し出た経験 (n=1, 373) (報告書 p. 22)

- ・ 申し出たことがある (合計) 約 46%  
⇒20 歳未満と 70 歳以上では、申し出たことがない割合が他の年齢層に比べて多い。(報告書 p. 23)

年齢層	申し出たことがない割合
10 歳未満	約 75%
10 歳以上 20 歳未満	約 67%
70 歳以上 80 歳未満	約 61%
80 歳以上	約 65%

- ジェネリック医薬品の希望を申し出たのに切り替えられなかった理由 (n=192)  
(報告書 p. 28)

- ・ ジェネリック医薬品が存在しない医薬品であるから 約 50%
- ・ ジェネリック医薬品をすぐに取りそろえられないから  
(在庫がないから) 約 21%
- ・ 医師の判断によるから 約 14%

○ ジェネリック医薬品の希望を申し出たことがない理由 (n=724) (報告書 p. 30)

- ・ 医師や薬局の判断に任せているから 約 34%
  - ・ すでにジェネリック医薬品を使用しており、  
改めて申し出る必要がないから 約 20%
  - ・ ジェネリック医薬品を希望しないから 約 19%
- ⇒10 歳未満はジェネリック医薬品を希望しないからが最も多い。  
(報告書 p. 31) 約 30%

○ 薬局でジェネリック医薬品を勧められた場合の考え (n=1, 425) (報告書 p. 32)

- ・ 勧められたとおり、ジェネリック医薬品にする 約 44%
  - ・ 先発医薬品かジェネリック医薬品かは、こだわらない 約 23%
- ⇒10 歳未満と 70 歳以上では、他の年齢層に比べて少ない。(報告書 p. 33)

○ ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要だと思うこと (n=1, 170)

(複数回答) (報告書 p. 34-35)

- ・ 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること 約 82%

年齢層	1 位	2 位	3 位
10 歳未満	・ 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること	・ 使用感がよいこと	・ 副作用の不安が少ないこと
20 歳未満	・ 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること	・ 使用感がよいこと ・ 窓口で支払う薬代が安くなること	・ 副作用の不安が少ないこと
30 歳未満	・ 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること ・ 窓口で支払う薬代が安くなること	・ 使用感がよいこと	・ 副作用の不安が少ないこと
30 歳以上	・ 効果(効き目)が先発医薬品と同じであること	・ 窓口で支払う薬代が安くなること	・ 副作用の不安が少ないこと

## 【薬局】

### ○ 令和元年6月9日～15日に行った調剤の品目数 (n=868) (報告書 p. 54)

対象	平均値	中央値
処方箋に記載された医薬品の品目数の合計	1008.1	411
一般名処方で調剤した後発医薬品の延べ品目数	486.9	150
先発医薬品の処方箋を後発医薬品に変更して調剤した延べ品目数	223.9	50.5

### ○ 患者に後発医薬品の説明を行う時期 (n=868) (複数回答) (報告書 p. 55)

- ・ 初回の来局時 約 92%
- ・ 新たな後発医薬品が販売された時 約 80%
- ・ 患者から求められた時 約 75%

### ○ 患者への後発医薬品の説明内容 (n=868) (複数回答) (報告書 p. 56)

- ・ 窓口負担の軽減 約 95%
- ・ 有効性、安全性など先発医薬品との同等性 約 94%
- ・ 形状や味、使用感などの工夫 約 62%

### ○ 対象者別の効果的な説明 (n=868) (複数回答) (報告書 p. 64-65)

対象者	1位	2位
若年層 (15歳未満)への説明	有効性・安全性など先発医薬品との同等性 約 70%	形状や味、使用感などの工夫 約 55%
高齢者 (65歳以上)への説明	有効性・安全性など先発医薬品との同等性 約 72%	窓口負担の軽減 約 70%

### ○ 後発医薬品を採用するときに重視すること (n=868) (複数回答) (報告書 p. 66)

- ・ 先発医薬品と適応症が一致していること 約 75%
- ・ メーカー・卸売業者が十分な在庫を確保し、  
安定的に供給されていること 約 72%
- ・ 迅速な納品の体制が整備されていること 約 62%

- **後発医薬品に対する不安感** (n=868) (報告書 p. 67)
  - ・ある 約 27%
  - ・どちらともいえない 約 46%
  - ・ない 約 27%
  
- **後発医薬品に関して不安感を抱いている理由** (n=638) (複数回答)  
(報告書 p. 68)
  - ・添加物の違いに不安感がある 約 52%
  - ・先発医薬品との効果の違い 約 41%
  - ・品質、有効性、供給に関する情報量が不足している 約 38%
  
- **後発医薬品に関して不足していると思われる情報** (n=408) (複数回答)  
(報告書 p. 75)
  - ・適応症 約 36%
  - ・添加物 約 32%
  - ・薬物動態 約 29%
  
- **後発医薬品の使用を進めていく場合、重要と考える条件** (n=868) (複数回答)  
(報告書 p. 76)
  - ・安定的な供給 約 81%

## 【病院・病院医師・診療所】

### ○ 後発医薬品の採用状況（病院 n=189、診療所 n=409）（報告書 p. 89）

対象	1位	2位
病院	後発医薬品があるものは積極的に採用 約 48%	薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 約 40%
診療所	薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 約 40%	後発医薬品があるものは積極的に採用 約 32%

### ○ 後発医薬品を採用する際に重視すること（病院 n=173、診療所 n=329） （複数回答）（報告書 p. 90）

対象	1位	2位
病院	先発医薬品と適応症が一致していること 約 79%	メーカー・卸売業者が十分な在庫を確保し、安定的に供給されていること 約 76%
診療所	先発医薬品と適応症が一致していること 約 75%	メーカーが品質について情報開示していること 約 48%

### ○ 院外処方箋について、後発医薬品の処方に関する考え

（病院医師 n=235、診療所 n=331）（複数回答）（報告書 p. 99）

対象	1位 後発医薬品を積極的に処方する	2位 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する	3位 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する
病院医師	約 71%	約 16%	約 9%
診療所	約 41%	約 34%	約 14%

- 後発医薬品を積極的に処方する理由（病院医師 n=225、診療所 n=293）  
（複数回答）（報告書 p. 100）

対象	1位	2位
病院医師	患者の経済的負担を軽減できるから 約 80%	医療費削減につながるから 約 71%
診療所	患者の経済的負担を軽減できるから 約 76%	患者が後発医薬品の使用を希望するから 約 58%

- 一般名処方による処方箋発行の状況（病院医師 n=235、診療所 n=331）  
（報告書 p. 102）

対象	一般名で処方している	一般名で処方していない
病院医師	約 67%	約 33%
診療所	約 79%	約 21%

- 先発医薬品を指定する場合の理由（病院医師 n=235、診療所 n=331）（複数回答）  
（報告書 p. 105）

対象	1位 患者からの希望があるから	2位 後発医薬品の品質や医学的な理由(効果や副作用)に疑問があるから
病院医師	約 64%	約 30%
診療所	約 63%	約 40%

○ 一般名処方調剤や変更調剤の情報提供について、薬局との合意方法

(病院 n=102、診療所 n=217) (複数回答) (報告書 p. 107)

対象	1位	2位	3位
病院	調剤をした都度提供すること 約 40%	原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しないとする 約 37%	お薬手帳等により患者経由で次の診療日に提供すること 約 31%
診療所	原則、調剤をした都度行うが、前回と同じ内容であった場合には連絡しないとする 約 53%	調剤をした都度提供すること 約 32%	お薬手帳等により患者経由で次の診療日に提供すること 約 22%

○ 後発医薬品に対する不安感 (病院 n=189、病院医師 n=261、診療所 n=409)

(報告書 p. 112)

対象	ある	どちらともいえない	ない
病院	約 39%	約 47%	約 14%
病院医師	約 31%	約 38%	約 31%
診療所	約 31%	約 49%	約 21%

○ 後発医薬品に対する不安感を抱いたきっかけや理由、内容等

(病院 n=162、病院医師 n=179、診療所 n=325) (報告書 p. 113)

対象	1位	2位	3位
病院	供給不足による院内採用薬の変更 約 54%	供給に関する情報量が不足している 約 52%	原薬に不安感がある 約 44%
病院医師	添加物の違いに不安感がある 約 65%	先発医薬品との効果の違い 約 59%	先発医薬品との副作用の違い 約 46%
診療所	添加物の違いに不安感がある 約 68%	先発医薬品との効果の違い 約 60%	品質・有効性に関する情報量が不足している 約 45%



○ 後発医薬品に関して不足していると感じる情報

(病院 n=110、病院医師 n=136、診療所 n=191) (複数回答) (報告書 p. 127)

対象	1 位	2 位	3 位
病院	他の医薬品との混注・ 混合 約 47%	副作用 約 31%	薬物動態 約 28%
病院医師	添加物 約 50%	副作用 約 45%	薬物動態 約 30%
診療所	添加物 約 53%	副作用 約 48%	臨床試験 約 34%

## 【保険者】

- 後発医薬品の使用促進に向けた取組の実施 (n=252) (報告書 p. 133)
  - ・実施している 約 97%
  
- 後発医薬品の使用促進に向けた取組の実施内容 (n=245) (複数回答)  
(報告書 p. 134)
  - ・差額通知の実施 約 89%
  - ・希望カードや希望シールの配布 約 77%
  - ・機関紙や Web サイトでの啓発 約 70%
  
- 差額通知の切替効果の検証実施有無 (n=219) (報告書 p. 142)
  - ・実施している 約 61%
  
- 直近で行った差額通知の 1 人あたりの切替効果額 (n=77) (報告書 p. 145)

効果額／月	構成比
100 円未満	4%
100 円以上 1,000 円未満	18%
1,000 円以上 3,000 円未満	51%
3,000 円以上 5,000 円未満	20%
5,000 円以上	8%